

多くの時代を経て これから

宇城市の男女共同参画活動のこれまでと、これから目指していくもの——。それぞれの想いを、現旧の男女共同参画社会推進委員会委員が語り合いました。

男女共同参画宣言都市 宇城市

私と参画活動

江村 70年前、結婚を機に市街地から移ってきて、当時の農村女性の働き方に疑問を持ちました。生活改善グループを結成し、毎月例会で話し合いを50年続けてきました。これが活動のきっかけだったと思います。

千葉崎 私は、行政の立場で各市町村の婦人研修を担当し、東京など先進地研修に同行しました。そこで、制度や仕組みなどが機能する状況を目の当たりにし、本腰を入れないといけないと思いましたね。

森川 高校教諭だったとき、私は家庭科の男女共学をずっと訴えてきましたが、なかなか実現できませんでした。そんな中、松橋高校で、男子生徒から「俺たちは、なして取られんとな。」と言われて。学年会で検討し、職員会議で採決。1988年に選択できるようになりました。

宣言当時から現在まで

松浦 合併後、男女共同参画推進条例ができ、その勉強会が何度もありました。すると、必要性が段々と分かるように。一朝一夕にしてなるものではないですね。パートナーシップフェスティバルでは、啓発の寸劇をしたのが思い出。仕事が終わって夜に、集まって練習をしました。自然に意識も高まり、みんな一つにまとまっていきましたね。

森川 男女共同参画の考えが地域へどれだけ浸透していないかまざまざと突きつけられたのは、数年前の区長会とき。担当者が女性区長の誕生を報告すると、後ろの方から「おなごに何がでくつか。」と大きな声で男性が言ったんです。そのと



啓発活動の手法を学ぶ
推進員たちの自主勉強会



女性に対する暴力をなくす運動で松橋高校へ



パートナーシップフェスティバルでの寸劇(左)、
啓発パネル展も



推進に向け、市と市議会へ毎年要望書を提出



男女共同参画社会推進委員
として活躍してきた皆さん

元委員 江村 英子さん
松浦 啓子さん
現委員 森川 公子さん
横尾 七生子さん
元委員 千葉崎 園児さん
(右から)

90年の人生の多くを男女共同参画に関わる江村さん、推進委員を4期8年務めた松浦さんと千葉崎さん、元高校教諭で現会長の森川さん、副会長を務める横尾さん。市役所正面には、啓発の意味も込めて、「男女共同参画宣言都市」の看板を設置しています。

き、私が思うことを皆さんに話したところ、応援してくれる男性区長さんもおられて。拍手をもらったことを思い出します。

これからの活動

江村 これからは、今までの活動を踏まえて、「意識を改革」し、「男女で参画」、そして「社会を変革」することが、重要となってくるように思います。これまでもこういった思いでやってきましたが、なかなか変わらない。だけど、変わらないと言いなながらも共同・平等の視点で男性も一緒に関わり続けること。今では少しずつ男性の育児休業も取れるようになりましたね。

松浦 それまでお父さんが育児をする「えらい」と言われていたのが、今ではそれが普通に。でもそうやって当たり前にする取り組みを、コロナ禍でどう進めていけるのか、推進委員さんたちの課題でもあると思いますし、これからが楽しみです。

横尾 今後は、仕事から帰ってくるまで子どもを安心して預けられる仕組みづくりに取り組みたいです。そのためには社会の意識を変えることが必要。仕事も自分のこともでき、一人一人が「自分らしく」いられるような仕組みを、少しずつでもつくれるよう活動していきたいです。

千葉崎 やはり女性の活躍に男性の協力は欠かせません。男性の意識を変えるために職場で、地域で、男女共同参画を常に一緒にやって呼び掛けていくことが大切ではないかと考えます。それに併せて、小学校から教育の場で、子どもたちに男女共同参画の意識付けをしていくことも必要ではないかと思っています。

横尾 3年ぶりのパートナーシップフェスティバル。そのメインとなる講演会の講師は、推進委員会で毎年吟味し、時代に合った講師を招いています。講演会に参加するととても大きな気付きや感動があると思います。